



ホスト プロファイル

ここでは、ホスト プロファイルの使用方法について説明します。

- [ホストプロファイルの要件と前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [ホスト プロファイル \(2 ページ\)](#)
- [ホストプロファイルの基本ホスト情報 \(4 ページ\)](#)
- [ホストプロファイルのオペレーティングシステム \(7 ページ\)](#)
- [ホストプロファイルのサーバー \(12 ページ\)](#)
- [ホストプロファイルの Web アプリケーション \(17 ページ\)](#)
- [ホストプロファイルのホストプロトコル \(19 ページ\)](#)
- [ホストプロファイル内の侵害の兆候 \(20 ページ\)](#)
- [ホストプロファイルの VLAN タグ \(20 ページ\)](#)
- [ホストプロファイル内のユーザー履歴 \(21 ページ\)](#)
- [ホストプロファイル内のホスト属性 \(21 ページ\)](#)
- [ホストプロファイル内の許可 \(Allow\) リスト違反 \(25 ページ\)](#)
- [ホストプロファイルでのマルウェア検出 \(27 ページ\)](#)
- [ホストプロファイルの脆弱性 \(28 ページ\)](#)
- [ホストプロファイルのスキャン結果 \(31 ページ\)](#)
- [ホストプロファイルの履歴 \(32 ページ\)](#)

ホストプロファイルの要件と前提条件

モデルのサポート

任意

サポートされるドメイン

任意

ユーザの役割

- 管理者

- セキュリティアナリスト (Security Analyst)

ホスト プロファイル

ホストプロファイルは、システムが1つのホストについて収集したすべての情報の完全なビューを提供します。ホストプロファイルにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。

- 任意のネットワーク マップ ビューから選択します。
- モニタ対象ネットワークでホストの IP アドレスを含む任意のイベント ビューから選択します。

ホストプロファイルは、ホスト名やMACアドレスなど、検出されたホストやデバイスに関する基本的な情報を提供します。ライセンスやシステム設定によっては、ホストプロファイルは次の情報を提供することもできます。

- ホスト上で実行中のオペレーティング システム
- ホスト上で実行中のサーバ
- ホスト上で実行中のクライアントと Web アプリケーション
- ホスト上で実行中のプロトコル
- ホスト上の侵害の兆候 (IOC) タグ
- ホスト上の VLAN タグ
- ネットワーク上での過去 24 時間のユーザー アクティビティ
- ホストに関連するコンプライアンスallow違反
- ホストの最新のマルウェア イベント
- ホストに関連付けられている脆弱性
- ホストの Nmap スキャン結果

プロフィールには、ホスト属性もリストされます。ホスト属性を使用して、ネットワーク環境にとって重要な方法でホストを分類することができます。例えば、以下を行うことができます。

- ホストが存在する建物を示すホスト属性を割り当てる
- ホストの重要度の属性を使用して、特定のホストのビジネス重要度を指定し、ホストの重要度に基づいて関連ポリシーとアラートを作成する

ホストプロファイルで、そのホストに適用されている既存のホスト属性を表示し、そのホスト属性値を変更できます。

パッシブ侵入防御展開の一部としてadaptive profile updatesを使用している場合、ホスト上のオペレーティングシステム、およびホストが実行しているサーバとクライアントのタイプに最も適合するように、システムがトラフィックを処理する方法を調整することができます。

オプションで、ホストプロファイルからNmapスキャンを実行し、ホストプロファイルのサーバ情報とオペレーティングシステムの情報を増やすことができます。Nmap スキャナはホストをアクティブに調査し、ホストを実行しているオペレーティングシステムおよびサーバの情報を取得します。スキャンの結果は、ホストのオペレーティングシステムおよびサーバー アイデンティティのリストに追加されます。

関連トピック

[ホストプロファイルの表示](#) (4 ページ)

ホストプロファイルの制限事項

利用できないホスト

ホストプロファイルは、ネットワーク上のすべてのホストでは使用できない可能性があります。考えられる原因は次のとおりです。

- タイムアウトしたため、ネットワーク マップからホストが削除された。
- ホストの制限に達した。
- ネットワーク検出ポリシーでモニタリングされないネットワークセグメントに、ホストが存在している。

利用できない情報

ホストプロファイルに表示される情報は、ホストのタイプ、および利用可能なホストの情報によって異なる可能性があります。

次に例を示します。

- 非 IP ベースのプロトコル (STP、SNAP、IPX など) を使用してシステムでホストを検出した場合、そのホストは MAC ホストとしてネットワーク マップに追加され、IP ホストに比べて使用できる情報はかなり少なくなります。
- システムは、エクスポートされた NetFlow レコードからネットワークマップにホストを追加できますが、これらのホストに使用できる情報は限られます ([NetFlow データと管理対象デバイス データの違い](#)を参照)。

(VRF を実行している導入) 1 つの IP アドレスが複数のホストを表す場合がある

VRF を実行しているデバイスによってホストが報告された場合、1 つの IP アドレスが実際には複数のホストを表している可能性があります。VRF は、重複する IP アドレスを持つ複数のネットワークをモニターできます。そのため、同じ IP アドレスを異なるネットワークに存在させることができます。

ホスト プロファイルの表示

手順

次の2つの選択肢があります。

- ネットワーク マップで、プロファイルを表示するホストの IP アドレスをドリルダウンします。
- 任意のイベントビューで、[ホストプロファイル (Host Profile)] をクリックするか、プロファイルを表示するホストの IP アドレスの隣にある、[侵害を受けたホスト (Compromised Host)] をクリックします。

ホスト プロファイルの基本ホスト情報

各ホストプロファイルは、検出されたホストまたは他のデバイスに関する基本情報を提供します。

次に、基本的なホスト プロファイルのフィールドについて説明します。

ドメイン (Domain)

ホストに関連付けられているドメイン。

IP アドレス

ホストに関連付けられているすべての IP アドレス (IPv4 と IPv6 の両方)。システムは、ホストに関連付けられている IP アドレスを検出し、サポートされている場合は、同じホストで使用される複数の IP アドレスをグループ化します。多くの場合、IPv6 ホストには、少なくとも2つの IPv6 アドレス (ローカルのみでルーティング可能なものと、グローバルにルーティング可能なもの) があり、その他に IPv4 アドレスを持っていることがあります。IPv4 専用ホストは、複数の IPv4 アドレスを持っていることがあります。

ホストプロファイルは、そのホストに関連付けられている、検出されたすべての IP アドレスを一覧で示します。可能な場合は、ルーティング可能なホスト IP アドレスに、フラグアイコン、およびアドレスに関連付けられている地理情報データを表す国コードも含まれています。

デフォルトでは最初の3つのアドレスだけが表示されることに注意してください。[すべて表示 (Show All)] をクリックすると、ホストのすべてのアドレスが表示されます。

ホストネーム

ホストの完全修飾ドメイン名 (わかる場合)。

NetBIOS 名 (NetBIOS Name)

ホストの NetBIOS 名 (使用できる場合)。Microsoft Windows ホストだけでなく Macintosh、Linux、または NetBIOS を使用するように設定されたその他のプラットフォームに NetBIOS 名を指定できます。たとえば、Samba サーバとして設定されている Linux ホストに NetBIOS 名を指定します。

デバイス (ホップ数) (Device (Hops))

次のいずれかを行います。

- ホストが存在しているネットワークに関するレポート作成デバイス (ネットワーク検出ポリシーで定義されている)、または
- ホストをネットワーク マップへ追加する NetFlow データを処理したデバイス

デバイス名の後に、ホストを検出したデバイスとホスト自身の間のネットワーク ホップの数が丸括弧で囲まれて表示されます。複数のデバイスで対象のホストを参照できる場合は、報告元のデバイスが太字で表示されます。

このフィールドが空白の場合は、次のいずれかです。

- ホストがデバイスによってネットワーク マップに追加されたが、このデバイスは、ホストが存在しているネットワークに対してネットワーク検出ポリシーに定義されているとおりに明示的に監視していない。または、
- ホストの入力機能を使用してホストが追加されたが、システムによって検出されていない。

MAC アドレス (TTL) (MAC Addresses (TTL))

ホストについて検出された1つ以上のMACアドレスおよび関連付けられているNICベンダー。NICのハードウェアベンダーと現在の存続可能時間(TTL)値が括弧で囲まれて表示されます。

複数のデバイスが同じホストを検出した場合、Management Center には、どのデバイスがホストを報告したかに関係なく、ホストに関連付けられているすべてのMACアドレスとTTL値が表示されます。

MACアドレスが太字で表示されている場合、そのMACアドレスは、ARPおよびDHCPトラフィックを通じた検出により、IPアドレスに明確に関連付けられた、ホストの実際の/該当する/プライマリのMACアドレスです。

太字フォントで表示されないMACアドレスはセカンダリアドレスなので、ホストのIPアドレスに明確に関連付けることはできません。たとえば、Firepowerデバイスは自身のネットワークセグメント上のホストのMACアドレスのみを取得できるため、トラフィックがFirepowerデバイスが直接接続されていないネットワークセグメントから発生している場合、監視されているMACアドレス(ルータのMACアドレス)は、ホストのセカンダリMACアドレスとして表示されます。

ホストタイプ (Host Type)

システムで検出されたデバイスのタイプ (ホスト、モバイルデバイス、ジェイルブレイクされたモバイルデバイス、ルータ、ブリッジ、NAT デバイス、またはロードバランサ)。

ネットワーク デバイスを区別するためにシステムでは次の方法を使用します。

- Cisco Discovery Protocol (CDP) メッセージの分析。ネットワークのデバイスおよびそれらのタイプ (シスコ デバイスのみ) を特定できます。
- スパニングツリープロトコル (STP) の検出。デバイスをスイッチまたはブリッジとして識別します。
- 同じ MAC アドレスを使用している複数のホストの検出。MAC アドレスを、ルータに属しているものとして識別します。
- クライアント側からの TTL 値の変更、または通常のブート時間よりも頻繁に変更されている TTL 値の検出。この検出では、NAT デバイスとロードバランサを識別します。
- モバイル デバイスを区別するためにシステムでは次の方法を使用します。
- モバイル デバイスのモバイル ブラウザからの HTTP トラフィックのユーザ エージェント 文字列の分析
- 特定のモバイル アプリケーションの HTTP トラフィックのモニタリング

デバイスがネットワーク デバイスまたはモバイル デバイスとして識別されない場合は、ホストとして分類されます。

前回の検出 (Last Seen)

ホストのいずれかの IP アドレスが最後に検出された日時。

現在のユーザ (Current User)

このホストに最後にログインしたユーザ。

既存の現在のユーザが権限のあるユーザでない場合、ホストにログインしている権限を持たないユーザは、現在のユーザとして登録されるだけであることに注意してください。

表示 (View)

接続、検出、マルウェア、および侵入イベントデータのビューへのリンク。このリンクは、そのイベントタイプのデフォルトワークフローを使用し、ホストに関連するイベントを表示するように制限されています。可能な場合は、これらのイベントには、ホストに関連付けられているすべての IP アドレスが含まれます。

ホストプロフィールのオペレーティングシステム

システムは、ホストで生成されたトラフィック内のネットワークおよびアプリケーションスタックを分析したり、User Agent でレポートされたホストデータを分析することによって、ホスト上で稼動しているオペレーティングシステムのアイデンティティをパッシブに検出します。システムでは、他のソース（Nmap スキャナ、ホストの入力機能によりインポートされたアプリケーションデータ）のオペレーティングシステムの情報も照合します。どのアイデンティティを使用するかを判断する場合、システムは、各アイデンティティのソース（発生源）に割り当てられている優先度を考慮します。デフォルトでは、ユーザ入力が最も高い優先度を持ち、以降は高い順にアプリケーションまたはスキャナソース、検出されたアイデンティティ、となります。

システムでは、オペレーティングシステムの具体的な定義ではなく、全般的な定義を提供することがあります。これは、トラフィックおよび他のアイデンティティソースで、対象のアイデンティティを詳しく調べるための十分な情報が提供されないためです。システムは、できるだけ詳しい定義を使用するために、ソースの情報を照合します。

オペレーティングシステムは、ホストの脆弱性リスト、およびホストを対象とするイベントの影響の相関関係に影響するため、オペレーティングシステムの特定の情報を手動で入力することもできます。また、オペレーティングシステムに対して、サービスパックやアップデートなどの修正ファイルが適用されたことを示すことも、修正ファイルによって対処された脆弱性を無効にすることもできます。

たとえば、システムでホストのオペレーティングシステムが Microsoft Windows 2003 であると特定されたが、実際にはホストが Microsoft Windows XP Professional および Service Pack 2 を実行していることがわかっている場合、オペレーティングシステムのアイデンティティを実際のおりに設定することができます。より具体的なオペレーティングシステムのアイデンティティを設定すると、ホストの脆弱性のリストの精度が向上するため、対象のホストに対する影響の相関関係が、より限定的かつ正確になります。

システムでホストに対するオペレーティングシステム情報が検出され、その情報が、アクティブなソースによって提供されている現行のオペレーティングシステムのアイデンティティと競合している場合、アイデンティティの競合が発生します。実際にアイデンティティの競合が発生している場合、システムは脆弱性と影響の相関関係の両方のアイデンティティを使用します。

ネットワーク検出ポリシーを設定して、NetFlow エクスポートによってモニタされるホストのネットワークマップに検出データを追加することができます。ただし、オペレーティングシステムの ID を設定するためにホスト入力機能の使用を設定しない限り、これらのホストで使用可能なオペレーティングシステムデータはありません。

オペレーティングシステムを実行しているホストが、有効なネットワーク検出ポリシーのコンプライアンス allow リストに違反している場合、Management Center はオペレーティングシステムの情報に allow リストの違反のマークを付けます。また、ジェイルブレイクされたモバイルデバイスが有効な allow リストに違反している場合、そのデバイスのオペレーティングシステムの隣にアイコンが表示されます。

ホストのオペレーティングシステムのアイデンティティに対して、カスタム表示文字列を設定できます。この表示文字列は、ホスト プロファイルで使用されます。



(注) あるホストについてオペレーティングシステムの情報を変更すると、ホストのコンプライアンス、およびコンプライアンスのallowリストが変わる可能性があります。

ネットワーク デバイスに対するホスト プロファイルでは、[オペレーティング システム (Operating Systems)] セクションのラベルが[システム (Systems)] に変わり、[ハードウェア (Hardware)] カラムが新しく表示されます。[システム (Systems)] の下にハードウェア プラットフォームの値が表示された場合、システムでは、ネットワーク デバイスの背後で検出された 1 つ以上のモバイル デバイスを示します。モバイル デバイスはハードウェア プラットフォームの情報を持っていることも、持っていないこともあります。モバイル デバイスではないシステムではハードウェア プラットフォーム情報は検出されないことに注意してください。

次に、ホスト プロファイルで表示されるオペレーティング システムの情報フィールドについて説明します。

ハードウェア (Hardware)

モバイル デバイスのハードウェア プラットフォーム。

OS ベンダー/ベンダー (OS Vendor/Vendor)

オペレーティング システムのベンダー。

OS 製品/製品 (OS Product/Product)

次の値のいずれかを指定します。

- すべてのソースから収集されたアイデンティティ データに基づいて、実行されている可能性が最も高いと判断されたオペレーティング システム。
- [Pending] : システムがオペレーティング システムをまだ識別しておらず、他に使用可能なアイデンティティ データがない場合。
- [unknown] : システムがオペレーティング システムを識別できず、オペレーティング システムに関して他に使用可能なアイデンティティ データがない場合。



(注) ホストのオペレーティングシステムをシステムで検出できない場合には、を参照してください。

OS バージョン/バージョン (OS Version/Version)

オペレーティングシステムのバージョン。ホストがジェイルブレイクされたモバイル デバイスの場合、バージョンの後に括弧で囲まれて Jailbroken と示されます。

ソース (Source)

次の値のいずれかを指定します。

- [ユーザ (User)] : user_name
- [アプリケーション (Application)] : app_name
- [スキャナ (Scanner)] : scanner_type (Nmap またはその他のスキャナ)
- Firepower


システムでは、オペレーティングシステムのアイデンティティを判断するために、複数のソースのデータを統合することができます。

オペレーティングシステムアイデンティティの表示

検出された、またはホストに追加された特定のオペレーティングシステムのアイデンティティを表示することができます。システムはソースの優先度を使用して、ホストに対する現行のアイデンティティを判断します。アイデンティティのリストでは、現行のアイデンティティが太字で強調されます。

1つのホストに対して複数のオペレーティングシステムのアイデンティティが存在している場合のみ、[表示 (View)] が有効になっていることに注意してください。

手順

-
- ステップ 1** ホストプロファイルの [オペレーティングシステム (Operating System)] または [オペレーティングシステムの競合 (Operating System Conflicts)] セクションで [表示 (View)] をクリックします。
 - ステップ 2** [ホストプロファイルのオペレーティングシステム \(7 ページ\)](#) の説明に従って情報を入力します。
 - ステップ 3** 必要に応じて、オペレーティングシステムのアイデンティティの横にある [削除 (Delete)] () をクリックします。

(注) シスコが検出したオペレーティングシステムのアイデンティティは削除できません。

該当する場合は、このシステムは [オペレーティングシステムのアイデンティティ情報 (Operating System Identity Information)] ポップアップウィンドウからアイデンティティを削除し、ホストプロファイルのオペレーティングシステムの現在のアイデンティティを更新します。

現在のオペレーティングシステムのアイデンティティの設定

Web インターフェイスを使用して、ホストに対する現行のオペレーティングシステムのアイデンティティを設定できます。Web インターフェイスを介してアイデンティティを設定すると、他のすべてのアイデンティティソースが上書きされるため、このアイデンティティが、脆弱性の評価および影響の相関関係で使用されます。ただし、オペレーティングシステムを編集した後で、ホストに対するオペレーティングシステムのアイデンティティの競合がシステムで検出されると、オペレーティングシステムの競合が発生します。競合が解決されるまで、両方のオペレーティングシステムが現行のものであるとみなされます。

手順

-
- ステップ 1** ホスト プロファイルの [オペレーティング システム (Operating System)] セクションで [編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 2** ここでは次のオプションがあります。
- [OS 定義 (OS Definition)] ドロップダウンリストから [現在の定義 (Current Definition)] を選択して、ホスト入力によって現行のオペレーティングシステムのアイデンティティを確認して、手順 6 に進みます。
 - [OS 定義 (OS Definition)] ドロップダウン リストから現行のオペレーティング システムのアイデンティティのバリエーションを選択し、手順 6 に進みます。
 - [OS 定義 (OS Definition)] ドロップダウンリストから [ユーザ定義 (User-Defined)] を選択して、手順 3 に進みます。
- ステップ 3** 必要に応じて、[カスタム表示文字列を使用する (Use Custom Display String)] を選択し、[ベンダー文字列 (Vendor String)]、[製品文字列 (Product String)]、および [バージョン文字列 (Version String)] フィールドに表示するカスタム文字列を変更します。
- ステップ 4** 必要に応じて、別のベンダーからのオペレーティング システムに変更するには、[ベンダー (Vendor)] と [製品 (Product)] のドロップダウンリストから選択します。
- ステップ 5** 必要に応じて、オペレーティング システムの製品リリース レベルを設定するには、[メジャー (Major)]、[マイナー (Minor)]、[リビジョン (Revision)]、[ビルド (Build)]、[パッチ (Patch)]、および [拡張 (Extension)] ドロップダウンリストから選択します。
- ステップ 6** 必要に応じて、オペレーティングシステムに対して修正ファイルが適用されたことを示す場合は、[修正の設定 (Configure Fixes)] をクリックします。
- ステップ 7** ドロップダウン リストから適用可能な修正を選択し、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 8** 必要に応じて、[パッチ (Patch)] および [拡張 (Extension)] ドロップダウン リストを使用して、対象のパッチと拡張機能を追加します。
- ステップ 9** [終了 (Finish)] をクリックします。

関連トピック

[オペレーティングシステムのアイデンティティの競合](#) (11 ページ)

オペレーティング システムのアイデンティティの競合

システムで検出された新しいアイデンティティと現行のアイデンティティが競合しており、そのアイデンティティが、スキャナやアプリケーション、ユーザなどのアクティブなソースによって提供されていた場合、オペレーティング システムのアイデンティティで競合が発生します。

ホスト プロファイルでは、競合状態のオペレーティング システムのアイデンティティのリストは太字で表示されます。

システムの Web インターフェイスを介して、アイデンティティの競合を解決し、ホストに対する現行のオペレーティング システムのアイデンティティを設定することができます。Web インターフェイスを介してアイデンティティを設定すると、他のすべてのアイデンティティソースが上書きされるため、このアイデンティティが、脆弱性の評価および影響の相関関係で使用されます。

競合するオペレーティング システム アイデンティティを現行に設定する

手順

ステップ 1 ホスト プロファイルの [オペレーティング システム (Operating System)] セクションに移動します。

ステップ 2 次の 2 つの選択肢があります。

- ホストのオペレーティング システムとして設定するオペレーティング システムのアイデンティティの隣にある、[現行にする (Make Current)] をクリックします。
- アクティブなソースで、現行のアイデンティティとして使用しないアイデンティティが表示された場合は、使用しないアイデンティティを削除します。

オペレーティング システムのアイデンティティ競合の解決

手順

ステップ 1 ホスト プロファイルの [オペレーティング システムの競合 (Operating System Conflicts)] セクションにある [解決 (Resolve)] をクリックします。

ステップ 2 次の選択肢があります。

- [OS 定義 (OS Definition)] ドロップダウンリストから [現在の定義 (Current Definition)] を選択して、ホスト入力によって現行のオペレーティング システムのアイデンティティを確認して、手順 6 に進みます。
- [OS 定義 (OS Definition)] ドロップダウンリストから、競合しているオペレーティング システムのアイデンティティのいずれかのバリエーションを選択して、手順 6 に進みます。

- [OS 定義 (OS Definition)] ドロップダウンリストから [ユーザ定義 (User-Defined)] を選択して、手順 3 に進みます。

- ステップ 3** 必要に応じて、[カスタム表示文字列の使用 (Use Custom Display String)] を選択して、表示するカスタム文字列を [ベンダー文字列 (Vendor String)]、[製品文字列 (Product String)]、および [バージョン文字列 (Version String)] フィールドに入力します。
- ステップ 4** 必要に応じて、別のベンダーからのオペレーティングシステムに変更するには、[ベンダー (Vendor)] と [製品 (Product)] のドロップダウンリストから選択します。
- ステップ 5** 必要に応じて、オペレーティングシステムの製品リリースレベルを設定するには、[メジャー (Major)]、[マイナー (Minor)]、[リビジョン (Revision)]、[ビルド (Build)]、[パッチ (Patch)] および [拡張 (Extension)] ドロップダウンリストから選択します。
- ステップ 6** 必要に応じて、オペレーティングシステムに対して修正ファイルが適用されたことを示す場合は、[修正の設定 (Configure Fixes)] をクリックします。
- ステップ 7** 適用した修正ファイルを、修正ファイル リストに追加します。
- ステップ 8** [終了 (Finish)] をクリックします。

ホスト プロファイルのサーバー

ホスト プロファイルのサーバセクションでは、監視対象ネットワーク上のホストで検出されるか、エクスポートされた NetFlow レコードから追加されるか、スキャナまたはホスト入力機能のようなアクティブなソースを介して追加されるサーバを列挙します。

リストは 1 つのホストにつき最大 100 台のサーバを表示します。100 個の制限に達すると、ホストからサーバを削除するか、またはサーバがタイムアウトになるまで、いずれかのソースの新しいサーバ情報は、アクティブであってもパッシブであっても廃棄されます。

Nmap を使用してホストをスキャンすると、オープンな TCP ポート上で稼動している、以前に検出されなかったサーバの結果が Nmap によって Servers リストに追加されます。Nmap スキャンを実行した場合、または Nmap の結果をインポートした場合、ホスト プロファイルに拡張可能な [スキャン結果 (Scan Results)] セクションも表示され、Nmap スキャンによってホスト上で検出されたサーバ情報が示されます。さらに、ネットワークマップからホストが削除されると、ホストのそのサーバーに対する Nmap スキャンの結果は廃棄されます。



- (注) システムは、エクスポートされた NetFlow レコードからネットワークマップにホストを追加できますが、これらのホストに使用できる情報は限られます ([NetFlow データと管理対象デバイス データの違い](#)を参照)。

ホスト プロファイルでサーバーを使用するためのプロセスは、ユーザーがプロフィールにアクセスする方法によって異なります。

- ネットワーク マップを介したドリルダウンによりホスト プロファイルにアクセスする場合は、サーバーの名前が太字で強調されて、サーバーの詳細が表示されます。ホストの他

のサーバーの詳細を表示する場合は、対象のサーバー名の隣にある[表示 (View)] (👁) をクリックします。

- 他の方法でホストプロファイルにアクセスする場合は、[サーバー (Servers)] セクションを展開し、詳細を表示するサーバーの隣にある[表示 (View)] (👁) をクリックします。



- (注) ホストが、有効な関連ポリシーにおけるコンプライアンスのallowリストに違反しているサーバーを実行している場合、Management Center は非準拠サーバーに、allowリストの [違反 (Violation)] のマークを付けます。

次に、[Servers リスト (Servers list)] の列について説明します。

プロトコル

サーバが使用するプロトコルの名前。

[ポート (Port)]

サーバが実行されているポート。

アプリケーションプロトコル (Application Protocol)

次のいずれかになります。

- アプリケーションプロトコルの名前
- [保留中 (pending)]: システムで、いずれかの理由でアプリケーションプロトコルをポジティブまたはネガティブに識別できない場合
- [未知 (unknown)]: 既知のアプリケーションプロトコルのフィンガープリントに基づいてシステムでアプリケーションプロトコルを識別できない場合、または (対応するサーバは追加せずに、ポート情報での脆弱性を追加することにより) ホストの入力を介してサーバが追加された場合

アプリケーションプロトコルの名前にマウスを重ねると、タグが表示されます。

ベンダーおよびバージョン (Vendor and Version)

システム、Nmap、または他のアクティブなソースで識別されたベンダーとバージョン、またはホストの入力機能を介して取得したベンダーとバージョン。有効なソースで識別が行われなかった場合、フィールドは空白になります。

ホストプロファイルのサーバーの詳細

Management Center は、1つのサーバについてパッシブに検出されるアイデンティティを最大16個表示します。パッシブな検出ソースには、ネットワーク検出データおよびNetFlowレコードが含まれます。システムで、このサーバの複数のベンダーまたはバージョンを検出した場

合、サーバは複数のパッシブなアイデンティティを持つことができます。たとえば、複数の Web サーバーで同じバージョンのサーバー ソフトウェアが実行されていない場合、管理対象デバイスと Web サーバー ファーム間にロード バランサがあると、システムでは HTTP について複数のパッシブ アイデンティティが識別されることがあります。Management Centerは、アクティブなソース（ユーザー入力、スキャナ、その他のアプリケーションなど）からのサーバー アイデンティティの数を制限することはありません。

Management Centerは現行のアイデンティティを太字で表示します。システムでは、さまざまな目的でサーバーの現行のアイデンティティが使用されます。このような目的には、1 つのホストに対する脆弱性の割り当て、影響の評価、ホストプロファイルの証明書およびコンプライアンス allow リストに対して記載された関連ルールの評価などがあります。

サーバーの詳細には、選択されたサーバーについて知られている、更新済みのサブサーバー情報が表示されることもあります。

サーバの詳細にサーバのバナーが表示されることもあります。これは、ホストプロファイルからサーバを表示したときに、サーバの詳細の下に表示されます。サーバのバナーは、サーバを識別するのに役立つサーバに関する追加情報を提供します。攻撃者がサーバのバナー文字列を意図的に変更した場合、システムは誤ったアイデンティティが示されたサーバを識別または検出できません。サーバのバナーには、そのサーバについて検出された最初のパケットの最初の 256 文字が表示されます。この情報は、サーバがシステムによって最初に検出されたときに一度だけ収集されます。バナーの内容は 2 列で表示されます。左側の列は 16 進表記で示され、右側の列は対応する ASCII 表記で示されます。



-
- (注) サーバーのバナーを表示するには、ネットワーク検出ポリシーで[バナーのキャプチャ (Capture Banners)]チェックボックスをオンにする必要があります。このオプションはデフォルトでは無効になっています。
-

ホスト プロファイルのサーバの詳細セクションには、次の情報が含まれています。

プロトコル

サーバが使用するプロトコルの名前。

[ポート (Port)]

サーバが実行されているポート。

ヒット数 (Hits)

管理対象デバイスまたは Nmap スキャナによってサーバーが検出された回数。ホストの入力によってインポートされたサーバについては、システムがそのサーバについてトラフィックを検出しない場合、検出回数は 0 になります。

前回の使用 (Last Used)

サーバが最後に検出された日時。システムで対象のサーバについて新しいトラフィックを検出しない場合、ホスト入力のデータが最後に使用された時間は、データの最初のインポート時間を反映しています。ホストの入力機能を介してインポートされたスキャナおよびアプリケーションのデータは、Management Center の設定に応じてタイムアウトします

が、Management Center の Web インターフェイスを介したユーザ入力の場合はタイムアウトしません。

アプリケーション プロトコル (Application Protocol)

サーバによって使用されるアプリケーションプロトコルの名前 (既知の場合)。

[ベンダー (Vendor)]

サーバのベンダー。ベンダーがわからない場合、このフィールドは表示されません。

バージョン (Version)

サーバのバージョン。バージョンがわからない場合、このフィールドは表示されません。

ソース (Source)

次の値のいずれかを指定します。

- [ユーザ (User)] : user_name
- [アプリケーション (Application)] : app_name
- [スキャナ (Scanner)] : scanner_type (Nmap またはその他のスキャナ)
- システムで検出されたアプリケーションの場合、Firepower、Firepower Port Match、または Firepower Pattern Match
- NetFlow レコードからネットワーク マップに追加されたサーバの場合、NetFlow

システムでは、サーバーのアイデンティティを判断するために、複数のソースのデータを統合することができます。

サーバ詳細情報の表示

手順

ホストプロファイルの [サーバー (Servers)] セクションで、サーバーの横にある [表示 (View)] (🔍) をクリックします。

サーバーのアイデンティティの編集



ホスト上のサーバーのアイデンティティ設定を手動で更新し、修正ファイルによって対処された脆弱性を削除するために、ホストに適用した何らかの修正ファイルを設定することができます。サーバのアイデンティティを削除することもできます。

アイデンティティを削除した場合、削除したアイデンティティが唯一のアイデンティティであっても、サーバは削除されません。アイデンティティを削除すると、[サーバの詳細 (Server

Detail)] ポップアップ ウィンドウからアイデンティティが削除されます。可能な場合は、ホスト プロファイルでそのサーバの現行のアイデンティティを更新します。

シスコ管理対象デバイスによって追加されたサーバのアイデンティティは、編集または削除できません。

手順

-
- ステップ 1** ホスト プロファイルの [サーバ (Servers)] セクションに移動します。
- ステップ 2** [表示 (View)] をクリックし、[サーバーの詳細 (Server Detail)] ポップアップ ウィンドウを開きます。
- ステップ 3** サーバーのアイデンティティを削除するには、削除するサーバーアイデンティティの隣にある [削除 (Delete)] () をクリックします。
- ステップ 4** サーバーのアイデンティティを変更するには、サーバーリストでサーバーの隣にある [編集 (Edit)] () をクリックします。
- ステップ 5** 次の 2 つの選択肢があります。
- [サーバタイプの選択 (Select Server Type)] ドロップダウン リストから現行の定義を選択します。
 - [サーバー タイプの選択 (Select Server Type)] ドロップダウン リストからサーバーのタイプを選択します。
- ステップ 6** オプションで対象のサーバー タイプのベンダーと製品のみを表示するには、[サーバー タイプで制限 (Restrict by Server Type)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** オプションでサーバの名前とバージョンをカスタマイズするには、[カスタム表示文字列の使用 (Use Custom Display String)] を選択し、[ベンダー文字列 (Vendor String)] と [バージョン文字列 (Version String)] に入力します。
- ステップ 8** [製品マッピング (Product Mappings)] セクションで、使用するオペレーティング システム、製品、およびバージョンを選択します。
- 例 :
- たとえば、サーバを Red Hat Linux 9 にマップする場合は、ベンダーとして [Redhat, Inc.] を、製品として [Redhat Linux] を選択し、バージョンとして [9] を選択します。
- ステップ 9** サーバの修正が適用されていることを示す場合は、[修正の設定 (Configure Fixes)] をクリックして、そのサーバに適用するパッチを修正リストに追加します。
- ステップ 10** [終了 (Finish)] をクリックします。
-

サーバー アイデンティティの競合の解決

アプリケーションやスキャナなどのアクティブなソースが、サーバーのアイデンティティデータをホストへ追加したときに、サーバーアイデンティティの競合が発生します。その後で、システムはサーバーアイデンティティの競合を示しているポートのトラフィックを検出します。

手順

-
- ステップ 1** ホストプロファイルで、[サーバー (Servers)] セクションに移動します。
 - ステップ 2** サーバーの横にある解決をクリックします。
 - ステップ 3** [サーバー タイプの選択 (Select Server Type)] ドロップダウン リストからサーバーのタイプを選択します。
 - ステップ 4** オプションで対象のサーバー タイプのベンダーと製品のみを表示するには、[サーバー タイプで制限 (Restrict by Server Type)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 5** 必要に応じて、サーバの名前とバージョンをカスタマイズする場合は、[カスタム表示文字列の使用 (Use Custom Display String)] を選択して、[ベンダー文字列 (Vendor String)] と [バージョン文字列 (Version String)] を入力します。
 - ステップ 6** [製品マッピング (Product Mappings)] セクションで、使用するオペレーティング システム、製品、およびバージョンを選択します。

例 :

たとえば、サーバを Red Hat Linux 9 にマップする場合は、ベンダーとして [Redhat, Inc.] を、製品として [Redhat Linux] を選択し、バージョンとして [9] を選択します。

- ステップ 7** サーバの修正が適用されていることを示す場合は、[修正の設定 (Configure Fixes)] をクリックして、そのサーバに適用するパッチを修正リストに追加します。
 - ステップ 8** [終了 (Finish)] をクリックします。
-

ホストプロファイルの Web アプリケーション

ホストプロファイルの [Web アプリケーション (Web Application)] セクションには、ネットワーク内のホスト上で動作していることをシステムが識別したクライアントと Web アプリケーションが表示されます。システムでは、パッシブ検出ソースとアクティブ検出ソースの両方から取得されるクライアントと Web アプリケーションの情報を識別できます。ただし、NetFlow レコードから追加されたホストに関する情報は一部しか取得することができません。

このセクションには、ホスト上で検出されたアプリケーションの製品とバージョン、使用できるクライアントまたは Web アプリケーションの情報、アプリケーションが最後に使用中であると検出された時間などの詳細情報が表示されます。

ホスト上で稼働している最大 16 個のクライアントが、このセクションに表示されます。16 個の制限に達すると、ユーザがホストからクライアントアプリケーションを削除するか、または

非アクティブである（クライアントがタイムアウトしている）ためにシステムによってホストプロファイルからクライアントが削除されるまで、新しいクライアント情報は、どのソースのものであるか、アクティブかパッシブかにかかわらず、廃棄されます。

また、検出されたそれぞれの Web ブラウザについては、アクセスされた最初の 100 個の Web アプリケーションが表示されます。この制限に達すると、ブラウザに関連付けられている新しい Web アプリケーションは、どのソースのものであるか、アクティブかパッシブかにかかわらず、次の条件を満たすまで廃棄されます。

- Web ブラウザのクライアントアプリケーションがタイムアウトになる、または
- ユーザーが、Web アプリケーションに関連付けられているアプリケーション情報をホストプロファイルから削除する

ホストが、有効な相関ポリシーにおけるコンプライアンス allow リストに違反しているアプリケーションを実行している場合、Management Center は非準拠アプリケーションに、allow リストの違反のマークを付けます。



ヒント ホスト上の特定のアプリケーションに関連付けられている接続イベントを分析するには、アプリケーションの隣にある [ロギング (Logging)] (🔍) をクリックします。接続イベントに対する優先ワークフローの最初のページが表示され、ホストの IP アドレスの他、アプリケーションのタイプ、製品、およびバージョンによって制限された接続イベントが示されます。接続イベントに対する優先ワークフローがない場合、ワークフローを選択する必要があります。

次に、ホストプロファイルに表示されるアプリケーション情報について説明します。

アプリケーション プロトコル (Application Protocol)

アプリケーション (HTTP ブラウザ、DNS クライアントなど) で使用されるアプリケーションプロトコルを表示します。

クライアント (Client)

ペイロードから派生したクライアント情報。この情報は、システムが識別するか、Nmap がキャプチャするか、またはホスト入力機能によって取得されます。有効なソースで識別が行われなかった場合、フィールドは空白になります。

バージョン (Version)

クライアントのバージョンを表示します。

Web アプリケーション

Web ブラウザの場合は、http トラフィックでシステムによって検出されたコンテンツ。Web アプリケーションの情報は、システムによって識別された、Nmap によってキャプチャされた、他のアクティブなソースによって取得された、またはホストの入力機能を介して取得された特

定のタイプのコンテンツ（WMV や QuickTime など）を表します。有効なソースで識別が行われなかった場合、フィールドは空白になります。

ホストプロファイルから Web アプリケーションを削除する

ホスト上で稼働していないことが判明しているアプリケーションを削除するには、ホストプロファイルからアプリケーションを削除します。ホストからアプリケーションを削除すると、そのホストに allow リストのコンプライアンスが適用されることがあります。



(注) システムでアプリケーションが再検出されると、アプリケーションはネットワークマップおよびホストプロファイルに再度追加されます。

手順

ステップ 1 ホストプロファイルで、[アプリケーション (Applications)] セクションに移動します。

ステップ 2 削除するアプリケーションの横にある [削除 (Delete)] (🗑️) をクリックします。

ホストプロファイルのホストプロトコル

各ホストプロファイルには、ホストに関連付けられているネットワークトラフィックで検出されたプロトコルに関する情報が含まれています。この情報には次のものが含まれます。

プロトコル

ホストが使用するプロトコルの名前。

層 (Layer)

プロトコルを実行しているネットワーク層 (Network または Transport)。

ホストプロファイルに表示されているプロトコルが、有効な関連ポリシーのコンプライアンス allow リストに違反する場合、Management Center は非標準プロトコルに、allow リストの違反のマークを付けます。

ホストプロファイルに、ホスト上で実行していないことがわかっているプロトコルがリストされている場合は、これらのプロトコルを削除できます。ホストからプロトコルを削除すると、ホストがコンプライアンス allow リストに準拠する可能性があります。




(注) システムでプロトコルが再検出されると、プロトコルはネットワークマップおよびホストプロファイルに再度追加されます。

ホスト プロファイルからプロトコルを削除する

手順

ステップ 1 ホスト プロファイルの [プロトコル (Protocols)] セクションに移動します。

ステップ 2 削除するプロトコルの横にある [削除 (Delete)] () をクリックします。

ホスト プロファイル内の侵害の兆候

システムは、モニタリング対象のネットワーク上でホストが悪意のある手段によって侵害されている可能性があるかどうかを判断するために、ホストに関連付けられているさまざまなタイプのデータ (侵入イベント、セキュリティインテリジェンス、接続イベント、ファイルまたはマルウェアイベント) との関連性を示します。イベントデータの特定の組み合わせと頻度は、影響を受けたホストの侵害の痕跡 (IOC) タグをトリガーとして使用します。

ホスト プロファイルの [侵害の兆候 (Indications of Compromise)] セクションには、ホストのすべての侵害の兆候のタグが表示されます。

侵害の兆候にタグを付けるように設定するには、[Cisco Secure Firewall Management Center デバイス構成ガイド](#)の「Enabling Indications of Compromise Rules」を参照してください。

侵害の兆候についての作業の詳細については、[侵害の兆候データ](#)とそのトピックのサブトピックを参照してください。

ホスト プロファイルの VLAN タグ

ホストが仮想 LAN (VLAN) のメンバである場合、ホスト プロファイルの [VLAN タグ (VLAN Tag)] セクションが表示されます。

物理ネットワーク機器は、多くの場合に VLAN を使用して、さまざまなネットワーク ブロックから論理ネットワーク セグメントを作成します。システムは 802.1q VLAN タグを検出し、それぞれに対して以下の情報を表示します。

- [VLAN ID] は、ホストがメンバである VLAN を表します。これは、802.1q VLAN の場合、0 ~ 4095 の任意の整数となります。
- [タイプ (Type)] は、VLAN タグが含まれている、カプセル化されたパケットを表します。値は Ethernet または Token Ring となります。
- [優先順位 (Priority)] は、VLAN タグの優先度を表します。これは 0 ~ 7 の任意の整数で、7 は最も高い優先度です。

VLAN タグがパケット内でネスト構造になっている場合、システムは最も内側の VLAN タグを処理し、Management Center は最も内側の VLAN タグを表示します。システムは、ARP および DHCP トラフィックを通じて識別される MAC アドレスのみの VLAN タグ情報を収集し、これらのタグを表示します。

たとえば全体がプリンタで構成されている VLAN があり、システムがこの VLAN で Microsoft Windows 2000 のオペレーティングシステムを検出した場合などは、VLAN タグ情報が有用です。VLAN 情報により、システムは正確性の高いネットワーク マップを生成できるようになります。

ホストプロファイル内のユーザー履歴

ホストプロファイルのユーザー履歴の部分には、過去 24 時間のユーザー アクティビティがグラフィック表示されます。一般的なユーザーは夕方にログオフし、また他のユーザーとホストのリソースを共有することがあります。電子メールのチェックなどの目的で行われる定期的なログインの要求は、短い標準の棒で示されます。ユーザーのアイデンティティリストは棒グラフで提示され、ユーザーログインが検出されたタイミングを示します。権限のないログインの場合は、棒グラフがグレーになっていることに注意してください。

システムは、ホストに対する権限のないユーザー ログインを、そのホストの IP アドレスに関連付けるため、そのユーザーはそのホストのユーザー履歴に表示されます。ただし、権限のあるユーザーログインが同じホストで検出された場合、その権限のあるユーザーログインに関連付けられているユーザーが、そのホストの IP アドレスとの関連付けを引き継ぐため、新しい権限のないユーザーログインがそのホストの IP アドレスとのそのユーザーの関連付けを壊すことはありません。ネットワーク検出ポリシーで、失敗したログインのキャプチャを設定した場合、リストにはこのホストへのログインに失敗したユーザーが含まれます。

ホストプロファイル内のホスト属性

ホスト属性を使用して、ネットワーク環境にとって重要な方法でホストを分類することができます。システムには以下の 3 つのタイプの属性があります。

- 定義済みホスト属性
- コンプライアンスの *allow* リストのホスト属性
- ユーザー定義ホスト属性

定義済みホスト属性を設定後、またはユーザー定義ホスト属性を作成後は、ホスト属性の値を割り当てる必要があります。



(注) ホスト属性は、どのドメインレベルでも定義できます。現在のドメインと先祖ドメインで作成されたホスト属性を割り当てることができます。

定義済みホスト属性

Management Center には、2 つの定義済みホスト変数が用意されています。

ホストの重要度 (Host Criticality)

特定のホストの業務の重要性を指定し、ホストの重要性に応じて関連ポリシーの応答を調整するには、この属性を使用します。たとえば、業務にとって組織のメールサーバが一般的なユーザワークステーションよりも重要であるとみなしている場合は、メールサーバと業務に重要なその他のデバイスに [高 (High)] の値を割り当て、他のホストには [中 (Medium)] または [低 (Low)] の値を割り当てることができます。その上で、影響を受けるホストの重要度に基づいて異なるアラートを起動する関連ポリシーを作成できます。

注記 (Notes)

他のアナリストに確認してもらいたいホストに関する情報を記録するには、このホスト固有の属性を使用します。たとえば、ネットワーク上のコンピュータに、パッチが適用されていない古いバージョンのテスト用オペレーティングシステムが搭載されている場合、[注記 (Notes)] 属性を使用して、システムは意図的にパッチを適用していないことを明示できます。

許可 (Allow) リストのホスト属性

ユーザーが作成するコンプライアンス allow リストごとに、各 allow リストと同じ名前でもスト属性が自動的に作成されます。allow リストのホスト属性に設定可能な値は、次のとおりです。

- 準拠 (Compliant) : allow リストに準拠しているホストを識別します。
- 非準拠 (Non-Compliant) : allow リストに違反しているホストを識別します。
- 未評価 (Not Evaluated) : allow リストの有効な対象ではないホスト、または何らかの理由で評価されていないホストを識別します。

allow リストのホスト属性の値を編集したり、allow リストのホスト属性を削除したりすることはできません。

ユーザ定義のホスト属性

定義済みのホスト属性またはコンプライアンス allow リストのホスト属性で使用されている基準と異なる基準を使用してホストを識別する場合、ユーザー定義のホスト属性を作成することができます。例えば、以下を行うことができます。

- ホストに対してファシリティコード、市町村、部屋番号などの物理的なロケーション ID を割り当てます。
- 特定のホストを担当するシステム管理者を示す担当者 ID を割り当てます。ホストに関連する問題が検出された場合、関連ルールとポリシーを作成して、適切なシステム管理者にアラートを送信することができます。

- ホストの IP アドレスに基づいて、事前定義されたリストからホストへ自動的に値を割り当てます。この機能は、ネットワーク上にホストが初めて表示されたときに、その新しいホストへ値を割り当てるために役立ちます。

ユーザ定義のホスト属性は、ホストプロファイルのページに表示されます。ここでホストごとに値を割り当てることができます。次のことも実行できます。

- 関連ポリシーと検索でホスト属性を使用します。
- イベントのホスト属性テーブルビューで属性を表示して、それに基づいてレポートを生成します。

ユーザ定義のホスト属性として、次のタイプのいずれか 1 つを使用できます。

テキスト (Text)

ホストに対してテキスト文字列を手動で割り当てることができます。

整数 (Integer)

正の整数の範囲の最初の数と最後の数を指定してから、ホストに対してこれらの数の 1 つを手動で割り当てることができます。

リスト (List)

文字列値のリストを作成してから、ホストに対してこの値のいずれかを割り当てることができます。また、ホストの IP アドレスに基づいて、ホストに対して値を自動的に割り当てることもできます。

複数の IP アドレスを持つホストの 1 つの IP アドレスに基づいて値を自動的に割り当てると、これらの値は、ホストに関連付けられているすべてのアドレスに適用されます。[ホスト属性 (Host Attributes)] テーブルを表示する場合は、このことに留意してください。

リストの値を自動的に割り当てる場合は、リテラルの IP アドレスではなくネットワークオブジェクトの使用を検討してください。このアプローチによって保守容易性を向上でき、特にマルチドメイン展開で有効です。これは、マルチドメイン展開でオーバーライドが有効になったオブジェクトを使用すると、子孫ドメインの管理者が先祖ドメインの設定を自分のローカル環境に合わせて調整できるためです。マルチドメイン展開では、子孫ドメインで重複した IP アドレスを使用している場合に意図しないホストに一致するのを避けるために、先祖ドメインレベルで自動割り当てリストを定義する場合は注意してください。

URL

ホストに対して手動で URL の値を割り当てることができます。

ユーザー定義のホスト属性を削除すると、その属性が使用されているすべてのホストプロファイルから削除されます。

テキストまたは URL に基づくホスト属性の作成

手順

-
- ステップ 1 [分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [ホスト属性 (Host Attributes)] を選択します。
 - ステップ 2 [ホスト属性管理 (Host Attribute Management)] をクリックします。
 - ステップ 3 [属性の作成 (Create Attribute)] をクリックします。
 - ステップ 4 名前を入力します。
 - ステップ 5 [ユーザ定義のホスト属性 \(22 ページ\)](#) の説明に従って作成する属性の [タイプ (Type)] を選択します。
 - ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。
-

整数ベースのホスト属性の作成

整数ベースのホスト属性を定義する場合は、その属性が受け入れる数値の範囲を指定する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 [分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [ホスト属性 (Host Attributes)] を選択します。
 - ステップ 2 [ホスト属性管理 (Host Attribute Management)] をクリックします。
 - ステップ 3 [属性の作成 (Create Attribute)] をクリックします。
 - ステップ 4 名前を入力します。
 - ステップ 5 [ユーザ定義のホスト属性 \(22 ページ\)](#) の説明に従って、作成する属性の [タイプ (Type)] を選択します。
 - ステップ 6 [最小 (Min)] フィールドに、ホストに対して割り当てることができる範囲の最小の整数値を入力します。
 - ステップ 7 [最大値 (Max)] フィールドに、ホストに対して割り当てることができる範囲の最大の整数値を入力します。
 - ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。
-

リストに基づくホスト属性の作成

リストベースのホストの属性を定義する場合は、リストに対してそれぞれの値を提供する必要があります。これらの値には、英数字、スペース、および記号を含めることができます。

手順

-
- ステップ1 [分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [ホスト属性 (Host Attributes)] を選択します。
 - ステップ2 [ホスト属性管理 (Host Attribute Management)] をクリックします。
 - ステップ3 [属性の作成 (Create Attribute)] をクリックします。
 - ステップ4 名前を入力します。
 - ステップ5 [ユーザ定義のホスト属性 \(22 ページ\)](#) の説明に従って、作成する属性の [タイプ (Type)] を選択します。
 - ステップ6 リストに値を追加するには、[値の追加 (Add Value)] をクリックします。
 - ステップ7 [名前 (Name)] フィールドに、追加する最初の値を入力します。
 - ステップ8 オプションで、ホストに追加した属性値を自動で割り当てるには、[ネットワークを追加 (Add Networks)] をクリックします。
 - ステップ9 [値 (Value)] ドロップダウンリストから、追加した値を選択します。
 - ステップ10 [IP アドレス (IP Address)] および [ネットマスク (Netmask)] フィールドに、この値を自動的に割り当てる IP アドレスのブロックを表す IP アドレスとネットワーク マスク (IPv4) を入力します。
 - ステップ11 リストにさらに値を追加して、IP アドレス ブロックの範囲内の新しいホストにこれらの値を自動的に割り当てるには、手順 6 ~ 10 を繰り返します。
 - ステップ12 [保存 (Save)] をクリックします。
-

ホスト属性値の設定

事前定義またはユーザ定義のホスト属性に値を設定できます。システムによって生成されたコンプライアンス allow リストのホスト属性値は設定できません。

手順

-
- ステップ1 変更するホスト プロファイルを開きます。
 - ステップ2 [属性 (Attributes)] セクションで、[属性の編集 (Edit Attributes)] をクリックします。
 - ステップ3 必要に応じて、属性を更新します。
 - ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

ホストプロファイル内の許可 (Allow) リスト違反

コンプライアンスallowリスト (またはallowリスト) は一連の基準で、ユーザーはこれを使用して、特定のサブネット上での実行が許可されるオペレーティングシステム、アプリケーション

ンプロトコル、クライアント、Webアプリケーション、およびプロトコルを指定することができます。

アクティブな関連ポリシーにallowリストを追加した場合に、システムでallowリストに違反しているホストがあることが検出されると、Management Center はallowリストのイベント（関連イベントの特別な種類）をデータベースに記録します。これらのallowリストイベントはそれぞれallowリスト違反に関連付けられます。これには、特定のホストがどのようにallowリストに違反しているか、および違反している理由が含まれています。あるホストが1つ以上のallowリストに違反している場合、ホストプロファイルにおいて、2つの方法でこれらの違反を参照することができます。

ホストプロファイルには最初に、ホストに関連付けられている個々のallowリストの違反がすべて一覧表示されます。

次に、ホストプロファイルにおけるallowリスト違反の説明が続きます。

タイプ

違反のタイプ（つまり、違反がオペレーティングシステム、アプリケーション、サーバ、またはプロトコルの非準拠の結果として生じたかどうか）。

理由

違反についての特別な理由。たとえば、Microsoft Windows のホストのみを許可するallowリストがある場合、ホストプロファイルには、ホストで稼働している現行のオペレーティングシステム（Linux Linux 2.4、2.6 など）が表示されます。

許可 (Allow) リスト

違反に関連付けられているallowリストの名前。

次に、オペレーティングシステム、アプリケーション、プロトコル、およびサーバーに関連付けられているセクションで、Management Center が、非準拠の要素にallowリストの [違反 (Violation)] のマークを付けます。たとえば、Microsoft Windows ホストのみを許可するようなallowリストでは、ホストプロファイルは、ホストのオペレーティングシステム情報の隣にallowリスト違反のアイコンを表示します。



(注) ホストのプロファイルを使用すると、コンプライアンスallowリストの共有ホストプロファイルを作成することができます。

共有許可 (Allow) リストホストプロファイルの作成

コンプライアンスallowリストの共有ホストプロファイルは、複数のallowリストで、ターゲットホスト上で実行を許可されるオペレーティングシステム、アプリケーションプロトコル、クライアント、Webアプリケーション、およびプロトコルを指定します。つまり、複数のallowリストを作成するが、同じホストプロファイルを使用して複数のallowリストで特定のオペレーティングシステムを実行するホストを評価する場合は、共有ホストプロファイルを使用します。

既知の IP アドレスが割り当てられている任意のホストのホストプロファイルを使用して、コンプライアンス allow リストで使用できる共有ホストプロファイルを作成することができます。ただし、システムでホストのオペレーティングシステムをまだ特定していない場合は、個々のホストのホストプロファイルに基づいて共有ホストプロファイルを作成することはできないことに注意してください。

手順

- ステップ 1** ホストプロファイルで、[許可リスト (Allow List) プロファイルの生成 (Generate White List Profile)] をクリックします。
- ステップ 2** 特別なニーズに応じて、共有ホストプロファイルを変更し、保存します。

関連トピック

[許可 \(Allow\) リストホストプロファイルの作成](#)

ホストプロファイルでのマルウェア検出

[最後に検出されたマルウェア (Most Recent Malware Detections)] セクションには、ホストがマルウェア ファイルを送信または受信した、最近のマルウェア イベントが最大 100 個表示されます。ホストプロファイルには、ネットワークベースのマルウェア イベント (マルウェア防御によって生成されたもの) とエンドポイントベースのマルウェア イベント (Cisco Secure Endpoint によって生成されたもの) の両方のリストが示されます。

ファイルが遡ってマルウェアと識別されたファイル イベントにホストが関係している場合、ファイルが送信された元のイベントは、マルウェアの特定が行われた後で、マルウェアの検出リストに表示されます。マルウェアとして識別されたファイルが、マルウェアではないと遡って判断された場合、そのファイルに関連するマルウェア イベントはリストには表示されなくなります。たとえば、ファイルの性質が Malware であり、これが Clean に変わった場合、そのファイルのイベントは、ホストプロファイル上のマルウェア検出リストから削除されます。

ホストプロファイルでマルウェアの検出を確認する際には、[マルウェア (Malware)] をクリックして、そのホストのマルウェア イベントを確認できます。

次に、ホストプロファイルの [最新のマルウェア検出 (Most Recent Malware Detections)] セクションの列について説明します。

Time

イベントが生成された日時。

ファイルがマルウェアであると遡って特定されたイベントでは、これはマルウェアが特定された時刻ではなく、元のイベントの時刻であることに注意してください。

[ホスト ロール (Host Role)]

検出されたマルウェアの伝送におけるホストのロール（送信側または受信側）。Cisco Secure Endpointによって生成されたマルウェアイベント（「エンドポイントベースのマルウェアイベント」）の場合、ホストは常に受信者になります。

[脅威名 (Threat Name)]

検出されたマルウェアの名前。

ファイル名 (File Name)

マルウェア ファイルの名前。

[ファイルタイプ (File Type)]

ファイルのタイプ（PDF や MSEXEC など）。

ホスト プロファイルの脆弱性

ホスト プロファイルの [脆弱性 (Vulnerabilities)] セクションには、ホストに影響を与える脆弱性が示されます。これらの脆弱性は、システムがホスト上で検出したオペレーティングシステム、サーバ、およびアプリケーションに基づきます。

ホストのオペレーティングシステムのアイデンティティ、またはホスト上のアプリケーションプロトコルのアイデンティティのいずれかで、アイデンティティの競合が発生している場合、システムは、競合が解決するまで両方のアイデンティティに対して脆弱性を表示します。

NetFlow データからネットワークマップに追加されたホストに使用可能なオペレーティングシステムの情報はなく、システムは、それらのホストに作用する侵入イベントに対し脆弱な（インパクトレベル1：赤）インパクトレベルを割り当てることができません。このような場合は、ホスト入力機能を使用して、ホストのオペレーティングシステム ID を手動で設定します。

サーバーのベンダーおよびバージョンの情報は、ほとんどの場合はトラフィックに含まれていません。デフォルトでは、システムはこのようなトラフィックの送信側および受信側に対して、関連付けられている脆弱性をマップしません。ただし、ベンダーまたはバージョンの情報を保持しない特定のアプリケーションプロトコルに対して脆弱性をマップするよう、システムを設定することができます。

ホストの入力機能を使用して、ネットワーク上のホストにサードパーティの脆弱性情報を追加すると、追加の [脆弱性 (Vulnerabilities)] セクションが表示されます。たとえば QualysGuard Scanner から脆弱性をインポートすると、ホスト プロファイルには [QualysGuard 脆弱性 (QualysGuard Vulnerabilities)] セクションが含まれます。サードパーティの脆弱性の場合、ホスト プロファイルの対応する [脆弱性 (Vulnerabilities)] セクションの情報は、ホストの入力機能を使用して脆弱性データをインポートしたときに提供した情報に制限されます。

サードパーティの脆弱性をオペレーティング システムおよびアプリケーションプロトコルと関連付けることはできますが、クライアントに関連付けることはできません。サードパーティ

の脆弱性のインポートについては、『*Firepower* システムホスト入力 API ガイド』を参照してください。

次に、ホスト プロファイルの [脆弱性 (Vulnerabilities)] セクションのカラムについて説明します。

名前

脆弱性の名前。

[リモート (Remote)]

脆弱性がリモートで不正利用される可能性があるかどうかを示します。この列が空白の場合、脆弱性の定義にはこの情報は含まれていません。

コンポーネント

脆弱性に関連付けられているオペレーティング システム、アプリケーション プロトコル、またはクライアントの名前。

ポート

ポート番号（脆弱性が、特定のポート上で実行されているアプリケーション プロトコルに関連付けられている場合）。

関連トピック

[脆弱性データのフィールド](#)

[脆弱性の非アクティブ化](#)

脆弱性に対するパッチのダウンロード

ネットワーク上のホストで検出された脆弱性を軽減するためのパッチをダウンロードできます。

手順

-
- ステップ 1 パッチをダウンロードするホストのホスト プロファイルにアクセスします。
 - ステップ 2 [脆弱性 (Vulnerabilities)] セクションを展開します。
 - ステップ 3 パッチを適用する脆弱性の名前をクリックします。
 - ステップ 4 [修正 (Fixes)] セクションを展開して、脆弱性に対するパッチの一覧を表示します。
 - ステップ 5 ダウンロードするパッチの隣の [ダウンロード (Download)] をクリックします。
 - ステップ 6 パッチをダウンロードして、影響を受けるシステムに適用します。
-

個々のホストに関する脆弱性の非アクティブ化

ホストの脆弱性エディタを使用して、ホストごとに脆弱性を非アクティブにすることができます。ホストの脆弱性を非アクティブにしても、そのホストの影響の相関に対して脆弱性は使用されますが、影響レベルは自動的に 1 レベル減少します。

手順

ステップ 1 ホスト プロファイルの [脆弱性 (Vulnerabilities)] セクションに移動します。

ステップ 2 [脆弱性の編集 (Edit Vulnerabilities)] をクリックします。

ステップ 3 [有効な脆弱性 (Valid Vulnerabilities)] リストから脆弱性を選択し、下矢印をクリックして [無効な脆弱性 (Invalid Vulnerabilities)] リストに移動します。

ヒント 隣接している複数の脆弱性を選択するには、クリックおよびドラッグを使用します。脆弱性をダブルクリックして、リスト間を移動することもできます。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

- 必要に応じて、ホストの脆弱性を [無効な脆弱性 (Invalid Vulnerabilities)] リストから [有効な脆弱性 (Valid Vulnerabilities)] リストに移動して、脆弱性をアクティブ化します。

関連トピック

[個々の脆弱性の非アクティブ化](#) (30 ページ)

[複数の脆弱性の非アクティブ化](#)

個々の脆弱性の非アクティブ化

ホスト プロファイルで脆弱性を非アクティブ化すると、ネットワーク マップにあるすべてのホストに対して脆弱性が非アクティブ化されます。ただし、いつでもその脆弱性を再アクティブ化することができます。

マルチドメイン展開では、先祖ドメインの脆弱性を非アクティブ化すると、すべての子孫ドメインでその脆弱性が非アクティブ化されます。リーフドメインでは、脆弱性が先祖ドメインでアクティブ化された場合、リーフドメインのデバイスの脆弱性をアクティブ化または非アクティブ化できます。

手順

ステップ 1 次のようにして、脆弱性の詳細にアクセスします。

- 影響を受けるホストプロファイルで、[脆弱性 (Vulnerabilities)] セクションを展開し、有効または無効にする脆弱性の名前をクリックします。
- 事前定義されたワークフローで、[分析 (Analysis)] > [ホスト (Hosts)] > [脆弱性 (Vulnerabilities)] を選択し、有効または無効にする脆弱性の横にある [表示 (View)] (👁) をクリックします。

ステップ 2 [影響を受ける条件 (Impact Qualification)] ドロップダウンリストから [無効 (Disabled)] を選択します。

コントロールが淡色表示されている場合、設定は先祖ドメインに属しており、設定を変更する権限がありません。

ステップ 3 ネットワークマップ上のすべてのホストに対して、[影響を受ける条件 (Impact Qualification)] の値を変更することを確認します。

ステップ 4 [完了 (Done)] をクリックします。

次のタスク

- オプションで、上記の手順を実行中に、[影響を受ける条件 (Impact Qualification)] ドロップダウンリストから [有効 (Enabled)] を選択することによって、脆弱性をアクティブにします。

関連トピック

[個々のホストに関する脆弱性の非アクティブ化 \(30 ページ\)](#)

[複数の脆弱性の非アクティブ化](#)

[オペレーティングシステムのアイデンティティの競合 \(11 ページ\)](#)

ホストプロファイルのスキャン結果

Nmap を使用してホストをスキャンする場合、または Nmap のスキャンから結果をインポートする場合、これらの結果は、スキャンに含まれているすべてのホストのホストプロファイルに表示されます。

Nmap が、ホストのオペレーティングシステムについて、およびオープンでフィルタリングされていないポート上で稼動している任意のサーバーについて収集した情報が、ホストプロファイルの [オペレーティングシステム (Operating System)] と [サーバー (Servers)] セクションにそれぞれ追加されます。また、Nmap は、そのホストのスキャン結果のリストを [スキャン結果 (Scan Results)] セクションに追加します。プロファイルに [スキャン結果 (Scan Results)] セクションが表示されるのは、スキャンでホスト上のオープンポートが検出された場合のみであることを注意してください。

各結果には、情報のソース、スキャンしたポートの番号とタイプ、ポート上で稼動しているサーバの名前、Nmap で検出された任意の追加情報 (ポートの状態やサーバのベンダー名など) が示されます。UDP ポートをスキャンする場合、そのポートで検出されたサーバーは [スキャン結果 (Scan Results)] セクションにのみ表示されます。

ホスト プロファイルから Nmap スキャンを実行できることに注意してください。

ホスト プロファイルからのホストのスキャン

ホストプロファイルから、ホストに対して Nmap スキャンを実行できます。スキャンが完了すると、ホストプロファイルでそのホストのサーバーおよびオペレーティングシステムの情報が更新されます。追加のスキャン結果は、すべてホスト プロファイルの [スキャン結果 (Scan Results)] セクションに追加されます。



注意 Nmap 提供のサーバおよびオペレーティングシステムのデータは、別の Nmap スキャンを実行するか、より優先度の高いホスト入力で上書きするまでスタティックなままになります。Nmap を使用したホストのスキャンを計画している場合は、定期的にスキャンをスケジュールします。

始める前に

- Nmap スキャンインスタンスを追加します。 [Cisco Secure Firewall Management Center デバイス構成ガイド](#) の「*Host Identity Sources*」の章を参照してください。

手順

- ステップ 1** ホストプロファイルで、[ホストのスキャン (Scan Host)] をクリックします。
- ステップ 2** ホストのスキャンに使用するスキャン修復の横にある [スキャン (Scan)] をクリックします。システムによってホストがスキャンされ、ホスト プロファイルに結果が追加されます。

関連トピック

[Nmap スキャンの自動化](#)

ホストプロファイルの履歴

機能	最小 Management Center	最小 Threat Defense	詳細
VRF を使用する場合の制限事項	6.6	任意 (Any)	仮想ルーティングおよび転送が環境内で使用されている場合、VRF に重複するネットワークスペースが含まれている可能性があるため、単一の IP アドレスが複数のホストを表すことがあります。 サポート対象プラットフォーム： Management Center

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。